



東京くにみ会 ～国見ファンの 輪を広げよう～

東京くにみ会が10月3日、東京都平河町の「ルポール麹町」で開催され、国見町に縁のある約230名が参加しました。

東京くにみ会は、国見町が東日本大震災や福島第一原発事故からの復興・再生を果たし、将来に向け歩み続けるために必要な「交流人口」の増加を目指して昨年初めて開催し、今年で2回目の開催となりました。

当日は、国見町を紹介するスライド上映や国見町和楽器教室の子どもたちが演奏を披露し、会を盛り上げました。また、会で提供された料理には国見産の野菜を使用し、商店街の美味しい加工品も並べられました。懇談に入ると、同郷の方々が同じテーブルに集まり、昔話に花を咲かせていました。

今後も東京くにみ会をはじめとして、国見町を応援していただくサポーターの輪を広げる取り組みを進めていきたいと考えています。



秋の町民 ウォーキング大会 & ひまわりのつどい

「秋の町民ウォーキング大会」と「ここを紡ぐ“ひまわり”のつどい」が10月12日、観月台文化センターを中心に開催されました。

第1部のウォーキング大会では、参加者が観月台文化センターをスタートし、堰下古墳や藤田城跡など町指定史跡を巡りながら藤田地区約4kmのコースを歩きました。天候にも恵まれ、秋晴れのなか、自分のペースでウォーキングを楽しみました。

第2部のひまわりのつどいは、国見町体育協会主催の復興支援事業で、今年で5回目の開催となりました。ウォーキング参加者など約200人が集まり、健康ゲーム、健康チェック、スポーツ吹矢体験、3B体操部の発表など盛りだくさんの内容で来場者は楽しく心安らぐひと時を過ごしました。



金融機関と 連携協定締結

国見町は、10月9日に(株)東邦銀行と包括連携協定を、10月21日には福島信用金庫と地域密着総合連携協定を締結しました。協定の締結により「まち・ひと・しごと」創生に向けた取り組みを連携して進めることとなります。

町では東邦銀行と福島信用金庫との協定締結に向け、空き家対策への支援を要望していましたが、福島信用金庫が10月1日から、東邦銀行が11月1日から空き家解体ローンの商品化にいたりしました。

さらに、東邦銀行は陸上競技部によるスポーツ教室の開催が予定されているほか、福島信用金庫では創業・経営・補助金等の相談会が11月に予定されており、具体的な取り組みが始まります。なお、両金融機関との協定により、定住、子育ての条件を満たせば、住宅ローン等の優遇金利を受けることができるようになります。詳しくは、東邦銀行桑折支店、福島信用金庫国見支店にご相談ください。

【東邦銀行・福島信用金庫との協定の内容】

- ① 人口減少対策・地域経済活性化
- ② 地域産品の販売及び観光振興
- ③ 災害対策
- ④ 地域や暮らしの安全・安心
- ⑤ 地域社会の活性化と町民サービスの向上

【東邦銀行・福島信用金庫の国見町民向け住宅ローン等優遇金利の概要】

プラン	対象	金利引下げ幅
定住促進支援	国見町に町外から定住を希望する方	固定選択型住宅ローンの店頭表示 金利より全期間一律年▲1.2%
子育て応援	国見町在住で20歳未満の子どもがいる方	
二世帯同居応援	国見町在住で父母または祖父母と同居する方	

くにみ版 まち・ひと・しごと創生



北村清士取締役頭取
協定書を取り交わす太田町長と



樋口郁雄理事長
協定書を取り交わす太田町長と

ママと考えるまちづくり ～大宮先生お話し会～



ママにやさしいまちづくりに向け、ママを対象にしたワークショップを10月17日、国見町役場で行いました。

桜の聖母短期大学の柴田千賀子准教授と学生の協力により、庁舎1階のアカマツの広場がおしゃれなカフェに変身。コーヒーや紅茶の香りが漂うなか、福島大学の宮大教授から「子育ての視点からまちづくりを考える」というテーマで話がありました。ママと一緒に来た子どもたちも桜の聖母短大のお姉さんと遊びながら参加し、楽しいひとときを過ごしました。

町では、まち・ひと・しごと創生の取り組みとして、ママにやさしいまちづくりを目指すこととしています。ママにやさしい「まち」は、子どもにもやさしい「まち」であるはず。ママの本音を聞き、まちづくりに活かす取り組みを始めています。